



WEB  
配信

# 府民公開講座 第15回

## 訪問看護研究発表会

配信期間:2021年3月15日~3月28日

YouTube「京都訪看チャンネル」から配信

昨年度はコロナ禍のため出来なかった訪問看護研究発表会。今年度もほとんどの研修が出来ない中、研究発表会だけでもと理事や運営委員会で開催を考え、研修委員が試行錯誤し感染対策をしながら今回のWEB配信に漕ぎ着けることが出来ました。発表者は一年越しの発表で改めての準備に戸惑い、記憶を呼び起こし発表に取り組みました。初の試みでしたがみんなの力が一つになり素晴らしい研究発表会になりました。

### 開会のあいさつ

京都府訪問看護ステーション協議会を代表致しまして開会の挨拶をさせていただきます。

当会では訪問看護の質、知識の向上を図るため毎年看護研究発表会を開催してきましたが、令和2年度では新型コロナウイルス感染症の影響を受けほとんどの企画が中止となりました。

この発表会は各地区の研究を共有し日々の実践を振り返り新しい知識や興味、課題を得ながら次年度に繋げる大切なイベントです。

今回の皆さんは令和2年度に植村さよ子先生にご指導を受けながら研究を作り上げてきました。多大なご協力を頂いた植村先生に心からあつく御礼申し上げます。

WEB配信によって例年より多くの皆様と学びを共有出来るのではないかと思います。

京都府の訪問看護ステーションの質の向上と在宅医療、介護の発展に繋がることを期待して開会の挨拶とさせていただきます。



副会長 小林 菜穂子  
訪問看護ステーションどんぐり



### ▶A地区 訪問看護ステーション看護職交流会参加前後の 「顔の見える関係」の変化

中村 洋子 訪問看護ステーション ほっぷ

#### 【講評】

顔の見える関係はとても大事です。今回の研究では半オリジナルの尺度を用いて、ステーションの看護職同士が「顔の見える関係」の交流会参加前後の変化を分析している。オリジナルの尺度を開発した方に許可を得て、個別性をプラスしたことはプロセスを踏んでいて良かった。

「顔の見える関係」活動を長く継続されることによって、参加者のみならず関わられる地域全体が良くなっていくことを望みます。



司会 西田 文世  
訪問看護ステーションフレイシ



【講評】  
松本 賢哉 教授  
京都橘大学看護学部

▶B 地区 訪問看護師の夜間オンコール業務における睡眠への影響  
～睡眠の状況を調査用紙と計測器のデータから検証して～

野崎 文美子 葵会総合ケアステーション

【講評】

今回の研究は PSQI の尺度を使って、オンコール業務に携わる訪問看護師の睡眠状態を調査された。睡眠に関わる研究は非常に興味深いです。

PSQI を測って、ある条件の睡眠リズムの人をピックアップして、オンコール時と非オンコール時の睡眠を調査しても面白い研究になったと思う。また、元々睡眠の質が良くない看護師が、オンコール日にはコールが鳴らなくても睡眠障害が出た等の結果が出れば、管理者の方は、今後そのようなスタッフにどう対応したらいいかを考える研究に発展すると思います。



▶C 地区 失禁関連皮膚炎のある在宅療養高齢者に対する効果的なスキンケアの検証  
～訪問看護師が中心となって行う  
ベストプラクティスに基づくスキンケアの効果～

辻 志乃 訪問看護ステーション太秦安井

【講評】

この研究のポイントは評価スケールで統一できたこと、共通言語で他職種が連携してケアを行えたことで、いい結果が得られたということですね。今までははっきりした評価ツールがなく表現していたが、この評価ツールを使うことで、他職種で効果的に関わって、結果としてスキンケアの改善がみられたという研究でした。



収録風景

於:ハートピア京都 大会議室



▶D 地区 訪問看護師で行っているリハビリ看護の実際と  
アセスメント力向上に向けての検討課題

鍋家 尚子 訪問看護ステーション京さくら

【講評】

リハビリに特化したステーションですね。今回の研究は訪問開始時と研究開始時の 2019 年に看護師が行ったリハビリの効果を検査されたが、病状によって効果が違うので有意差がでなかったのですね。良くなった人、悪くなった人を分けて、その原因の分析をすることが大事です。また病気の種類や介護度で分けて分析した方がリハビリ介入の意義が出たのではないかと思います。自分のステーションの強みを全面に出すのに、こういう疾患の方にこういうリハビリを行うことで、こういう目標に達したという、他者が見てもわかりやすいアピールになるとと思います。



▶E 地区 訪問看護師とのエンゼルケアの経験が家族の悲観に及ぼす影響  
～悲観尺度を用いて～

【講評】

万福 満喜子 訪問看護ステーション絆

訪問看護の素晴らしいところは、亡くなられた後にご家族に会って調査できることですね。エンゼルケアに参加されたことで、その後のご家族の心境がどの様に変化したか、今後も研究を重ねてステーションの大事にしている看護を続けていただきたい。



▶F 地区 サービス付き高齢者住宅の介護職員と協働し、  
皮下出血と表皮剥離の予防を試みて

本間 有美子 訪問看護ステーションふれあい



【講評】

この研究のタイトルは「協働」より「原因の分析をして皮膚トラブルの予防につなげた」とした方がいい。皮膚トラブルの原因を分析し、ケア方法を他職種とカンファレンスして決定し、実施したことによっていい結果が得られた。分析方法をアピールしたい研究になったと思います。



▶G 地区 終末期を支えるヘルパーとの連携における訪問看護師の役割  
～ヘルパーの不安と役立つ連携方法についてのアンケートを実施して～

中島 詠子 訪問看護ステーションかみの

【講評】

終末期の携わる方には「不安」が付き物なので、タイトルに「不安」を入れた方が良かったのではないのでしょうか。ヘルパーの不安に対して訪問看護師がどのように関わるか、訪問看護師の役割、意義を見いだす研究になったと思います。

【全体のまとめ】

研究を進めていくなかで皆さんがとてご苦労されたということが伝わりました。研究をこつこつと積み重ねていくことが、今後訪問看護の素晴らしさを形として残していけるので、是非研究を継続していただけたらと思います。



閉会のあいさつ



看護研究の取り組みで学んだ問題意識を解決に導く力は訪問看護の質、知識の向上につながり、訪問看護師に期待される役割と考えます。できるだけ多くの方に視ていただき、訪問看護への関心と理解を深めてもらいたいです。

副会長 加藤 小津恵  
訪問看護ステーション「西陣」

看護研究発表を終えて(研修員より)

第15回訪問看護研究発表会は本来なら令和2年3月に開催を予定していましたが、発表に向け準備を進めて参りましたが、新型コロナウイルス感染拡大により急遽中止を余儀なくされ、その後例年行われている各研修もほぼ中止となってしまいました。研修委員として集まって会議を開くこともできず、これまで経験したことのない活動方法に戸惑いの多い1年となりました。

この度、Web配信という新しい試みとして皆様のご協力を頂き、第15回訪問看護研究発表会を開催することができ非常にうれしく存じます。当日の撮影では研修委員も発表者も最初は緊張感が漂っていましたが、いざ発表が始まると滞りなく進めることが出来ました。改めて訪問看護の難しさや面白さ、質の向上に向けた日々の努力の大切さなど各々が考えられる良い機会となりました。また、このように協議会として横の繋がりを持って活動していくことの意味や意義についても実感することが出来ました。

今回の発表のために「看護研究の進め方」の講義から発表原稿作成に至るまでご指導くださいました佛教大学保健医療技術部教授の植村佐代子先生、好評をお引き受けくださいました京都橘大学看護学部教授の松本賢哉先生にこの場をお借りし厚く御礼申し上げます。

第15回看護研究発表会編集後記

昨年は思いもよらないコロナ禍という状況に見舞われ一年超しの発表となりました。初めての試みとなるWEB配信でしたが、研修委員のご尽力により感染対策をしながら執り行うことが出来ました。いつもの雰囲気とは全く違いましたが、和やかな雰囲気でも始まり慣れない撮影にも緊張もありましたが良い経験となりました。感染状況がどうなっていくか分かりませんがこの新たな取り組みが出来たことは研究発表を継続する上で大きな一歩だったと思います。これからも訪問看護の質及び知識の向上を図るため看護研究に取り組んでいきましょう。

広報委員会